

事あるも、願くは許されん事を。第七信十七日玉碎!!!玉碎!!!斯くて兩氏等六人の純勞働者は悲壯なる退場を演じ、東京神田明治會館に於て顛末報告演説を行ふや直ちに歸阪中央公會堂に於て我が大阪の勞働者に報告演説會を開いたのである、其後勞働代表に選出せられたる本多高野兩博士受諾せず、幾多の曲折を経て柳本卯平氏勞働代表を受諾したれば、組合は十月二日協議會を開き此際柳本代表は默認するも若し顧問を懲憑し來るとも斷然顧問は拒絶する事に決したのである、然るに堂前氏は顧問を受諾したる爲め多年の同志は泣いて除名處分を行ふたのである

第六章 鐵工組合の陣容

勝つて兜の緒を締めよ成立以來隆々たる盛運に際會せる鐵工組合は更に内容の充實に努め、十月十九日本部樓上に於て幹事總會を開き先づ規約改訂を議すると共に、組合の決議機關たる代議員會及び其の執行機關たる理事會の兩制度を實行する事に決し、代議員の總選舉を行ひ、十一月四日第一回代議員會を召集し創立委員たる横田阪本平井氏辭任し改めて組合長及

び理事長の選舉を行ひ、規約一部を變更し、又大阪鐵工組合員が唯だに大阪のみならず兵庫和歌山廣島山口金澤長崎等にあるを以て此際大阪鐵工組合を日本鐵工組合と改稱せん事を提議せる者ありしも、寧ろ堅實に大阪を堅め地方の組合員には日本職工總同盟なるものを組織し之れに加盟せしめて大阪鐵工組合は日本職工總同盟大阪鐵工組合と稱する事に決議し、越えて十一月十九日中央公會堂に於て役員會を開催し理事長は理事會を組織し茲に新たなる陣容を整へたのである而して、出版部は直ちに出版部の擴張を計り、在來發行せる大阪鐵工組合機關紙を新聞紙法に則される純勞働新聞を發行し紙幅を増加すると共に、毎月一回發行を二回發行に改め更に組合旗新調服装制定の計畫を立て、組合旗は組合員の寄附に依る旨を發表せしが、忽ち山田辰二郎君外三百七十名參百拾八圓八拾錢の寄附を見、實行委員は直ちに燦然たる組合旗を調製したのである、更に又購買組合を創設して、日用品を製造業者より直取引をなし原價を以て組合員に供給すべく、山田辰二郎谷村藤一魚谷米二郎氏等専ら之れが完成に盡力し、組合石